

『鎌倉殿の13人史跡巡り』

鎌倉駅

覚園寺

永福寺

大倉幕府

法華堂跡(源頼朝墓・北条義時

鶴岡八幡宮

宝戒寺

妙本寺

鎌倉駅

【覚園寺】

1218年(建保6年)、第2代執権北条義時が十二神将の戌神将のお告げを受けて建立した大倉薬師堂を前身とする寺院です。1296年(永仁4年)、第9代執権北条貞時が元寇を退けることを祈って寺に改め、心慧上人を開山として覚園寺を創建しました。

当初は真言・天台・禅・浄土の四宗兼学の寺で、鎌倉幕府の保護を受け、北条氏滅亡後は後醍醐天皇の勅願所として、また建武の中興後は足利氏の庇護を受けて繁栄しました。



本堂の茅葺屋根は県内最大のもので、本尊は薬師如来坐像で鎌倉時代の様式でその両脇に日光菩薩坐像・月光菩薩座像が安置され、左右には十二神将立像が祀られています。

十二神将は薬師如来およびその信者を守護する12体の武神で、子・丑・寅など12支の象徴が頭上に飾られています。全て国の重要文化財となっています。

右側奥には鞆阿弥陀菩薩があります。胎内には仏像が入っていて、ふくよかな菩薩が祀られています。さやえんどうは鞆の中で豆を守っています、ピーナツも鞆に守られていますね。

地蔵堂には黒地蔵(地蔵菩薩像)があります。お堂奥に錫杖と宝珠をもって立つ黒地蔵は地獄に堕ちた罪人の苦しみを少しでも和らげようと、地獄の役人に代わって火を焚いたと言われています。その為に黒く煤けていて、いくら彩色しても一夜の内に黒くなってしまうと言われます。

【永福寺跡】

永福寺(ようふくじ)は、1192年(建久3年)、源頼朝が奥州平泉の中尊寺、毛越寺、無量光院などを模して建てた寺院です。鶴岡八幡宮・勝長寿院とともに頼朝の三大寺院と呼ばれました。弟源義経と奥州藤原氏の霊魂を鎮めるために建立したといわれ、それとともに頼朝自身の権勢を世に知らしめる為だったと言われています。

本堂は二階堂と呼ばれ、本尊は釈迦如来だったと考えられています。跡地は国の指定史跡となっていて、本堂の「二階堂」の名は地名として残されています。

永福寺は、二階堂を中心に薬師堂、阿弥陀堂、三重塔などを備えた壮大な寺院でしたが、1405年(応永13年)に焼失、その後廃絶したと思われますが、時期は分かっていません。

発掘調査では、中心に二階大堂、南に阿弥陀堂、北に薬師堂が回廊(複廊)で結ばれ、阿弥陀堂の南と薬師堂の北には苑池へと延びる翼廊を従えていたことが確認され、それぞれの翼廊の先端は釣殿となっていたと考えられている。

復元想像図



【大倉幕府・大蔵御所(1180-1225年)跡】

鎌倉入りした源頼朝は大倉郷に御所を新造し、公文所、問注所を設置し、ここに幕府政務機能を集中させました。
以後頼家、実朝と源氏3代の将軍はこの場所で政務を行いました。



大倉幕府は鶴ヶ岡八幡宮の北東一帯の地域にあったと言われており、そこを中心に、東御門、西御門、少し南に將軍御所、公文所、問注所など幕府の主要施設が置かれていました。
幕府跡は3カ所あり、他に若宮大路東側に宇都宮辻子幕府(1225-1236年)跡と若宮大路幕府(1235-1333年)跡がありました。

【法華堂跡(源頼朝墓・北条義時墓)】

鎌倉幕府の創始者源頼朝と、武家政権発展の礎を築いた北条義時の慰霊を行った墓堂(法華堂)の跡で、頼朝法華堂跡には頼朝墓と伝わる石塔があり、義時法華堂跡は発掘調査で遺構が確認されています。

(源頼朝墓)

白旗神社から石段を登ると、源頼朝の廟所である法華堂があった場所と推定されています。
頼朝墓の石塔は、1779年(安永8年)に第8代薩摩藩主島津重豪が整備を行い、現在も碑文が墓所内に残りますが、碑文に玉垣、灯籠、水盤等が寄贈されたことが記されています。
現在の石塔は1989年(平成元年)に塔身と第1層の蓋石を残し毀損したが、1990年(平成2年)に修理、再建したものです。

(北条義時墓)

北条義時墓は、白旗神社から東側70メートルほどに参道入口石段があり、石段上部にある平坦地に、かつて義時法華堂がありました。2005年(平成17年)の鎌倉市教育委員会の発掘調査で、この770平方メートル程度の平坦地の地下から廟所である法華堂の遺構が発見されています。遺構の位置が、鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』元仁元年6月18日条に「前奥州(義時)禅門葬送す故大将(頼朝)家の法華堂の東の山上をもって墳墓となす」と記述があり、頼朝墓からの方位と地形が一致しているため、北条義時が葬られた法華堂跡であると推定されています。

頼朝墓
法華堂跡



義時墓跡地
法華堂跡



北条義時の法華堂遺構から北奥の斜面に石造りの鳥居と2列の石段があり、石段の上部には、向かって左から毛利季光、大江広元、島津忠久の墓所があります。

(大江広元墓)

大江広元は鎌倉幕府の政所初代別当を務めた人物で、毛利季光は広元の4男であり、源頼朝法華堂が季光終焉の地です。
これらの縁から第10代長州藩主・毛利斉熙が1824年(文政6年)に造営しました。

(毛利季光墓)

毛利季光は、鎌倉幕府の御家人で、鎌倉幕府の創設に貢献した大江広元の四男であり、代々長州藩主となる毛利氏の祖となる人です。北条氏と三浦氏が争った宝治合戦(1247年)で妻の実家の三浦氏に味方し、戦に敗れた三浦氏一族とともに源頼朝墓の法華堂で自害したと伝わる。1824年(文政6年)長州藩藩主・毛利斉熙により鶴岡八幡宮の西側の雪ノ下の鶯ヶ谷の地に造営され、1921年(大正10年)にこの地に移設されました。

(島津忠久墓)

島津忠久は鎌倉幕府の御家人で、島津氏の祖であり、また頼朝の庶子であったと島津家に伝わっており、第8代薩摩藩主・島津重豪が頼朝墓に近いこの地に1779年(安永8年)に島津氏初代・忠久の墓を造営しました。

(三浦泰村一族供養墓)

1247年(宝治元年)の宝治合戦で、北条時頼に攻められた三浦泰村、及び一族276人が源頼朝法華堂に立てこもり自害したと伝わり、その自害した三浦一族を供養するための墓所です。



大江広元墓



毛利李光墓



島津忠久墓



三浦泰村一族墓

【鶴岡八幡宮】

古都・鎌倉の中心部に位置する鶴岡八幡宮。その歴史は康平6年(1063年)、源頼義が源氏の守り神として由比郷鶴岡(現在の材木座)に京都の石清水八幡宮を勧請したことから始ります。後に源頼朝が現在の地へ遷し、鶴岡若宮と称したのが現在の鶴岡八幡宮。鎌倉幕府から篤く信仰された鶴岡八幡宮は、広く武門の神、勝利の神として崇敬を集めることとなったのです。鶴岡八幡宮の参道であり、鎌倉の目抜き通りでもある「若宮大路」の始まりは由比ヶ浜の「一ノ鳥居」から、中央が正式な参道となっており、二ノ鳥居から三ノ鳥居までは一段高くなった「段葛」と呼ばれる道となっています。

三ノ鳥居が境内の入口です。入ってすぐに目に入るのが「源氏池」(右側)と「平家池」(左側)そしてそこに架けられたのが「太鼓橋」です。造営当時は朱に塗られた「赤橋」と呼ばれる橋だったそうですが、現在は渡ることができません。

本殿下には「舞殿」があります。源義経の愛妾であった静御前が義経を想う舞を納めたと言われる廻廊跡に建っており、現在も「鎌倉まつり」ではそれにちなんだ「静の舞」が行われます。

舞殿を過ぎると大石段があります。その脇に有名な大銀杏があります。2020年(平成22年)3月強風に為、根元から折れましたが今は根元から若芽が生えてもう5m近くに育っています。

この大銀杏には有名な歴史があります。1219年(建保7年)1月27日、源頼家の子で八幡宮の別当を務めていた公暁が階段脇に生えていたこの銀杏の木に隠れて待ち伏せ、この大階段の13段目に降りてきた源実朝を殺害したという伝説があり、隠れ銀杏という別名があります。



本殿



舞殿



大階段

舞殿の向こう側、大石段を上った先にあるのが本宮の楼門です。扁額に記された八幡宮の「八」は鳩の向き合う形を表しています。これは八幡神の使いが鳩であることにちなんだもの。鶴岡八幡宮をこの地へ遷した源頼朝は、平安京を手本として町づくりを行ったそうです。その際に内裏として想定されたのが鶴岡八幡宮であり、朱雀大路になぞらえて建設されたのが若宮大路でした。

【宝戒寺】

宝戒寺は、鎌倉幕府第2代執権北条義時以来、北条家が代々住居を場所に、後醍醐天皇の勅命をうけた足利尊氏公により、北条氏の霊を弔うため、1336年(延元元年)に創建されました。また国宝的人材を養成する道場として北条氏執権屋敷跡であるこの地に建立されました。鎌倉幕府元執権(第14代)の北条高時は、1333年7月4日(元弘3年5月22日)、新田義貞の軍に追い詰められて葛西ヶ谷(かさいがやつ、宝戒寺の裏山)の東勝寺で自害、一族郎党871余名も運命を共にし、鎌倉幕府は滅亡しました。



また、宝戒寺は花の名所としても知られ、春の桜、夏の百日紅(さるすべり)や酔芙蓉(すいふよう)秋の萩、冬の梅、椿など境内(けいだい)は四季折々の花によって彩られます。秋のお彼岸になると境内中が白萩に埋め尽くされ、「萩寺」という名でも親しまれています。

【妙本寺】

開山は日蓮聖人、開基は、順徳天皇に仕えた儒学者、比企能本(よしもと)と伝えられています。能本は、鎌倉時代に鎌倉殿を支えた13人の御家人のひとり比企能員(よしかず)の末子です。比企一族は、1203(建仁3)年に北条時政らにより滅ぼされますが、幼少で京都にいた比企能本が後年、鎌倉で日蓮聖人と出会い、自分の屋敷を献上したのが妙本寺の始まりとなっています。因みに、日蓮聖人は1262(文応元)年、能員に「長興」、母に「妙本」の法号を与え、寺の名前を「長興山 妙本寺」と名付けました。



広い境内には、持国天と多聞天を安置する「二天門」、日蓮宗の開祖である日蓮聖人(祖師)をを祀る「祖師堂」、日蓮聖人銅像、3代将軍頼家と若狭局の嫡子である「一幡之君袖塚」、比企一族の墓、若狭局を祀る蛇苦止堂(じゃくしどう)などがあります。

鎌倉の13人は誰？

(武士御家人)

- 北条義時(小栗旬)** 伊豆
鎌倉殿の右腕として、一癖も二癖もある坂東武者たちの間を奔走する。のちの幕府二代執権。
- 北条時政(坂東彌十郎)** 伊豆
義時の父。鎌倉殿と坂東武者双方をつなぐ存在。のちの鎌倉幕府初代執権。
- 梶原景時(中村獅童)** 相模
源頼朝を追い詰めた謎の武将。武骨な坂東武者が多い中、和歌を好むなど教養も高い。
- 和田義盛(横田栄司)** 相模
義澄の甥。武骨な坂東武者の中でも、豪快さと勇猛さは指折り。幕府の侍所別当。
- 比企能員(佐藤二朗)** 武蔵
武蔵の有力武士。頼朝の乳母である比企尼の養子。のちに北条と火花散る権力闘争を起こす。
- 三浦義澄(佐藤B作)** 相模
時政とは若いときからの悪友で、相模の有力武士団・三浦党を率いている。
- 安達盛長(野添義弘)** 武蔵
源頼朝の愛すべき従者。頼朝が心を許す数少ない男。手のかかる頼朝を献身的に世話する。
- 足立遠元(大野泰弘)** 武蔵
武蔵の豪族。文武の才にたけ、鎌倉入りした頼朝のもとで文官の役割をこなす。
- 八田知家(市原隼人)** 常陸
北関東を治める御家人。伊豆・相模・武蔵の勢力と一線を画す。北条の敵か味方か。
- (文人御家人)
- 大江広元(栗原英雄)** 政策担当
冷静にして冷徹。極めて有能な官僚で、幕府の政所を取り仕切る。
- 中原親能(川島潤哉)** 外務担当
頼朝の外交官。朝廷との交渉役として鎌倉と京を往復して活動。義経上洛にも付き従う。
- 三善康信(小林隆)** 訴訟担当
朝廷に仕えながら、都の情勢を頼朝に伝え続けた支援者。幕府の問注所を率いるように。
- 二階堂行政(野仲イサオ)** 財務担当
京での財務官僚としてのキャリアを生かすべく鎌倉に下向。文官メンバーに加わる。